

# たかさご史話 ⑥ 石に歴史あり

高砂名物は何だろうとインターネットで調べてみたら、おいしいあなごと柏餅、それに「竜山石」らしい。そこで早速竜山の採石現場に行って、赤・青・黄色の石を拾ってきました。現在採石されているのは青い石が多く、これは古墳時代の昔より山の表面から採掘して行って、現在内部の深いところから掘り出しているものだそうです。「石に歴史あり」と発見しました。

古墳時代には石棺の素材として有名な竜山石ですが、江戸時代になると商業ベースのつて全国的に流通しました。

天保期（一八三〇～四四）の大坂町奉行が作成した書付でも、竜山石は「普請方第一之品」と言われており、家屋の土台石や河川の護岸用石材などとしてなくてはならない石でした。慶長期（一五九六～一六一五）頃から民間で採掘が始まったといわれるのは当時の築城・城下町造成ブルムと関係していると考えられます。

また一八世紀初め頃には生

石・島・塩市の村人たちの手で本格的採石が始まるのですが、資金を大坂の石問屋が前貸ししていたこと、技術面で摂津の御影と関係があるらしいことがわかっていきます。

天保七年（一八三六）には、竜山石の重要性に目をつけた姫路藩が専売制をしいて、生産・販売を管轄しましたが、それにより大坂市場では石の値段が高騰したと先に述べた町奉行の書付で問題にされています。

（高砂市史編さん専門委員  
中川すがね）

